

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会 検討部会(中学生の部)

日 時：令和4年11月17日(木) 午後5時5分～午後5時58分

場 所：三軒茶屋分庁舎 消費生活課「教室」

出席者：委員(10名)

【学識経験者】近藤委員(委員長)、細越委員(副委員長)

【中学生】熊倉委員、吉田委員、平岩委員、玉置委員、宇都宮委員、  
日小田委員、蔵持委員、鈴木委員

【区職員】渡部教育長

事務局(3名)

次 第：1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

4 意見交換

5 まとめ

6 連絡事項

午後 5 時 5 分開会

○事務局 それでは、時間となりましたので、これから中学生による中学校の部活動に関する意見交換会を開催いたします。

皆様、こんばんは。本日はテスト前の方もいらっしゃるということですが、放課後にお集まりいただきありがとうございます。

私は、世田谷区教育委員会事務局生涯学習・地域学校連携課の鈴木といいます。今回は部活動に関する意見交換会ということで、少し私の昔の話になってしまいますが、私は中学時代に野球部に所属しておりました。大会でいい成績を残すために、皆さんと同じように一生懸命練習に取り組んでいました。今となっては、あの中学校時代の部活動の経験が、礼儀作法など今の自分を支える根幹となっているなど強く実感しております。

これから皆さんにも、現在取り組んでいる部活動について思っていることを自由に話してもらいたいと思いますので、本日はよろしく願いいたします。

それでは、まず皆さんと一緒に意見交換会をされる日本体育大学の近藤智靖委員長より御挨拶していただきます。近藤委員長、よろしく願いいたします。

○委員長 皆さん、こんにちは。日体大の近藤です。日体大って聞いたことあるよね。私は中学校時代、学校ではバスケットボールで、実は地域で野球もやっていたので、2つのことをやっていました。今大学ではタッチラグビー、聞いたことあるかな、ラグビーのちょっと変形したやつの顧問をしています。サークルなので、大人がやっている種目なので、あまり指導はしません。

これから皆さんの本音を聞きたいなと思っておりまして、すごく緊張していると思うし、何で私はここにいるのだろう、どうして僕はここにいるんだろうと思うかもしれませんけれども、皆さんの意見を聞いて、それを参考にしたいなと思っているんです。自分で言った発言が学校の成績に関係あるか、全くないので、全く気にしなくていいので、フリーに発言してください。私も娘がいて、すぐ「だるっ」とかいつも言ったりするんですけど、そんなような発言を言っていただいても、私たちは今、全然構わないなと思っています。よろしく願いします。

○事務局 近藤委員長、ありがとうございます。

それでは、お手数ですが、ここからは委員長に進行をお願いいたします。近藤委員長、よろしく願いいたします。

○委員長 はい、ありがとうございます。

では、今日は違う中学校から集まっていたいておまして、全員違う中学校で、全員2年生ですけれども、皆さん、後でちょっと一言ずつ言ってもらうので、その前に大人のほうから。

○副委員長 皆さん、こんにちは。私は、国士舘大学というところに勤めています細越といいます。私は、高校3年生の娘、この子は喜多見中学校でバドミントンをしていましたが、中学校3年生のサッカーをしている息子がいます。

今日は、中学生がより頑張れる、楽しく取り組んでいけるような、そんな部活動の在り方を我々が考えていくために、皆さんの意見を聞きたいということで集まっていたきました。私自身は陸上競技をやっていました。三種競技って今もあるのかな、今は四種かな。400メートルと走り幅跳びと砲丸投げをやるというのを、なぜかやってみろと言われて取り組んでいました。結果として、すごくいい部活動だったなと思いますけれども、今日は皆さんの様子もたくさん教えてもらえればと思います。よろしくお願いします。

○委員長 細越先生、ありがとうございます。後から渡部教育長が来ますので、来たら、迎え入れてください。

順番にお名前、学校名、それから部活を教えてください。

(委員自己紹介)

○委員長 ありがとうございます。やっぱり中学生はいいね、本当にちゃんとできる、すばらしい。

皆さんのお話を聞く前に1個だけ。この中から12月中旬にもう1回大人の検討委員会というのがあって、そちらに中学生代表として出てもらう人たちがいるということだけは了承してください。全員が全員じゃなくて、多分二、三名だと思います。それを聞くと、「うわっ、面倒くさ」、「発言するのやめよう」というふうになるかもしれませんが、この中でいろいろちょっと相談させていただいて、誰かにお声をかけさせていただくかと思いますので、そのときには積極的に発言してもらえると本当にありがたいです。よろしくお願いします。

では、大きく分けると2つのことを聞きたいと思っています。前半は、今の中学校の部活について少し皆さんの話を聞きたいと思っています。発言は、手を挙げるでもいいし、最初、1問目だけみんなで順番にマイクを回そうか。あと2問目以降は、自分たちで考えがまとまった人だけが発言していくというふうにしましょう。

では、1個目の質問をしますね。今、皆さん、吹奏楽とか、サッカーとか、陸上とか、いろんな部活の名前を言っていたいただきましたが、何でそれを選んだのというところを聞きたいのですが、順番に言っていただけますか。

○委員 まず、小学校の頃から野球をやっていたというのと、正直なところを言うと、スポーツがあまりうまくなくて、野球をずっとやっていたから野球ができるみたいな感じで、野球しかないなという感じで野球部に入りました。

○委員 私は、小学校にも吹奏楽団というものがあって、小学校では入ろうか迷ったのですが、入りませんでした。それで、中学校に入って、また吹奏楽をやりたいなと思って吹奏楽部に所属しました。

○委員 僕は小学生の頃から地域の陸上クラブみたいなところに通っていて、その流れで中学でも陸上をやろうということになりました。

○委員 私ももともと小学校の頃にやっていたというのと、とても走ることが好きだったのにプラスして、自分が結構目立ちたがり屋なところがあったので、何か1つ学校とか学年の中で自分が秀でているものが欲しくて、だったら、せっかくだし、もともと得意で好きだったもので、ちょっと目立ちたいというのがあったから、陸上部に入ろうと思ったのが理由です。

○委員 目立ったこういうのがあって入りましたというのはないんですけども、強いて言えば、僕の2つ上の先輩方がサッカーがすごく強い代で、その人たちとサッカーができればいいなとか思って入りました。

○委員 私は、小学校の頃にテニスをやっていて、中学生になってそのテニスをやめるつもりで、そうすると、勉強ばかりになって運動ができなくなるとなって、体育の成績とかもというのを考えて、小学校からやっていて好きだったテニス部に入りました。

○委員 僕は運動部に1個は入っておきたいなと思っていたんですけども、なかなか決められなくて、友達の誘いで入ったのが運動部で、茶道部はあまり日常だと体験できない日本の文化とかを学びたいというのと、もともとおばあちゃんが茶道の先生をやっていて、コロナ禍であまり会えない中で、家族との交流とかをどうやったらできるかなと思ったら、じゃ、茶道にしようと思って茶道部に入りました。

○委員 小学校の頃、父親と少しだけですけれども、テニスコートを借りて少しテニスをしていたんですけども、ほかにも母がテニスを見るのが結構好きで、自分も一緒に見ていたりして興味を持って、中学でも硬式があると聞いて、それならやってみようと思って

て、小学校からやりたいと思って、中学校で入らせていただきました。

○委員長 ありがとうございます。みんなばらばらなだけけれども、小学校時代からすごくやってみたかったとか、あるいは小学校時代やっていたものとか、あと家族だとか、お友達とか、先輩だとかというふうな様々な理由があって今の部活を選んでいただけでも、部活をやって一番楽しいななんていう瞬間はどうだろう。部活をやっていて楽しいなと思うときってどんなときかな。ここからは挙手でいこうか。

○委員 僕は野球部で、やっぱり野球部ってきついイメージがあるじゃないですか。そのきつい練習を乗り越えて試合に勝ったときは、やっぱりやり切ったなというのはあります。

○委員長 きつい練習をやり切った。

○委員 テニス部なので、ラリーとか、そういう相手と1対1でボールを打つというのが楽しかったのと、あと先輩とも仲よくなれるし、後輩とも仲よくなれるし、テニスという共通点だけでいろんな友達が増えて、そういうのも楽しかったです。

○委員長 なるほどね。ラリーとかやり切りとか。

○委員 今、私の中学校は、東京トレセンのコーチに週に2回くらい練習を見に来てもらっているんですけども、そのコーチとかから、サッカーとか、そういうプレーだけじゃなくて、例えばルールとか、そういうのとかも教えてもらって、サッカーについてまた一歩理解することができたというときがすごく楽しいかなと思います。

○委員長 一歩深く理解する楽しさですね。

○委員 吹奏楽では、音楽祭とかでもみんなで合奏したりするんですけども、曲が終わった瞬間とかが、拍手とかが起きてとても楽しいなというふうに感じます。

○委員長 なるほどね。

○委員 陸上は個人種目のイメージがすごくあるんですけど、実際練習とかは競ったりするので、みんなでやる、みんなで走るということが多いのです。その練習の終わった後に、みんなで走っているから、自分たちがみんなきつい練習をこなしたとか、同じメニューをやっているということから、試合とかで、自分じゃないほかの人がいい記録を出したときなどは、みんなで、自分のことのように喜べるのがすごくいいところ、うれしいところかなと思います。

○委員 僕も他の委員と同じで、ラリーとかを続けることによって、やっぱりスポーツって1人じゃ何もできないものだと思っているんですね。そういう友達とかの絆とかが深まったり、あと日々の活動を通して、マナーや礼儀も習得できて、先輩から教わったり、後

輩に教えたりすることで、多角的な視点を持てるようになっていたり、様々な面で成長できる  
ところがいいところかなと僕は思っています。

○委員長 なるほど。

○委員 自分は本当に初心者で、ほぼ初心者で入ったので、最初から今までとにかくできる  
ようになっていくということが本当に自分は楽しいと思えたし、あとは友達とも、自分  
が上がっていくのに対して友達も上がっていく、その切磋琢磨というのかな、友達と競い  
合えるというか、そういうことも楽しいと思える瞬間です。

○委員 陸上部で100メートルとか、200メートルをやっているんですけども、1位を取  
ったりしたときとか、自己ベストが縮んだときとかもちろんうれしいんですけども、  
やっぱり部員の友達たちと一緒にしゃべったり、練習したり、そういうところも含めて全  
部楽しいと思いました。

○委員長 皆さんすばらしいね。みんなで一緒にとか、先輩とか、仲間とか、それからで  
きたとか、勝ったとか、うまくなったというところとか、さらに深く理解したとか、やり  
切ったとかという、そんなようなのが楽しさの一つになっているかなというのをちょっと  
感じたところですよ。

もう一つ、楽しいの反対で、ここら辺はちょっと大変だったな、今苦勞しているな、し  
んどいななんて、ふとというふうに言っているのか分からないけれども、大変だななんて  
いう瞬間というのはどうですか。

○委員 テニス部なので、持久力をつけないといけなくて、そのときに、外周だったりと  
か、やりたくないなと思うときもあるし、雨になって校庭が使えなくなって、室内で筋ト  
レするとなったときはちょっとテンションが下がります。

○委員長 気持ちは分かります。

○委員 テニス部だと、朝練を含めて1週間ずっとやっているような感じですけども、  
休みがないというか、やっぱりやっけていて楽しいんですけども、疲れがたまってストレ  
スとか、悩みというか、すごい睡眠に襲われたりするので、そこがちょっと苦勞している  
ところかなと思います。

○委員 僕が中1のときは、顧問の先生がいたんですけども、その顧問の先生が10月と  
かくらいに病気か何かで学校を辞めちゃって、その後に仮の顧問と言ったら失礼かもしれ  
ないんですけども、陸上部の先生が顧問になったんですけども、練習のメニューとか  
もまともに考えてくれずに、そうなる、部員とかも乱れてくるので、そういうときに1

人でも、仕切ってくれると言ったら変ですけども、そういう1人大きい人がいて、その下に動くというのがある程度あってもいいんじゃないかなとは思いました。

○委員長 なるほどね。今の話は専門でない人がちゃんとやってくれなかったということですね。ありがとうございます。

○委員 競技とはあまり関係ないところなんですけれども、私は一応部長としてやらせていただいている、その上で、後輩と自分たちの学年との人間関係だったり、部活への姿勢の違い、一人一人思っていることがやっぱり違うので、結構自立している面としていない面が同じ人でもあるのだと思います。個性が強い人がいっぱいいるので、意見がまとまらなかつたりするのですが、まとめなきゃいけない立場の自分からすると、自分の力不足の部分を感じていて、そこはすごい大変だなと思います。でも、きちんとできたときは達成感があり、うれしい気持ちはあるんですが、解決しなければいけない事がどんどんたまっていっちゃうので、結構きついなと思うときはあります。

○委員長 大学生も同じだね。今、人間関係とまとめるのでみんな苦勞しています。ありがとう。

○委員 陸上部で大会当日に顧問の先生方は試合の審判のほうに回ってしまっていて、レース前にしたいフォームの確認とかが、外部のコーチがいる学校とかだったらまだできると思うんですけども、そういうところがない学校だったので、フォームの確認とかができなくてちょっと大変だなと思った部分はありました。

○委員長 重要な視点です。先生が運営のほうに行っちゃうんだよね。

○委員 今、もう引退してしまったんですけども、3年生が6人とか、今の1年生の後輩が10人とか、とにかく人数が少ないんですね。なので、部活の魅力をもっと伝える機会がほしいなというのと、あと吹奏楽部は飛沫が飛ぶというのもあって、コロナ禍によって地域の人に発表する機会というものがとても少ないんですね。なので、録音とかでも地域の人に発表する機会をつくれたらいいなというふうに思っています。

○委員長 大事な視点です。人数とそれから発表の機会だね。

○委員 幾つかあるんですけども、まず入学して、最初の夏休みとか慣れないときは、すごい時間が長くてきついなと思ったり、あと先々週なんですけれども、本来木曜日が休みだったんですけども、祝日で休みなしというのがあって、そのときはすごいつらいなと思ったのと、あとやっぱり野球なので、スランプというのがあって、何もかもうまくいかないときみたいになって、そういうときは辞めたいと思うくらいつらいというのと、

他の人と似ているところがあるんですけども、僕も一応キャプテンで、人数が少ないので、野球部合同チームを組んでいるんですけども、そのときに先生が審判とかでいなくて、周りがふざけて言うことを聞いてくれないときとかもつらいなというのはあります。

○委員長 なるほどね。合同チームを組むことのしんどさみたいなのは今あるね。

○委員 今、新しく1年生の部員が入ってきてくれて、結構人数が多くなったんです。男子テニス部がめっちゃ多くなって、特に1年生、入ってきた子たちがちょっと荒れているというか、少し先生も初めて部活で悩んだというぐらい、うまい子が率先して進めるという感じじゃなくて、逆にふざけちゃうみたいな感じで、そういうところに、今もなんですけれども、2年生としてどうするかということに苦労しています。

○委員長 人数が増えたことによって意識の差があったり、比率の差みたいなのが出ているのかな。

皆さん、やっぱり中学校で運動部、キャプテンをやっている子たちもいると思いますけれども、相当苦労しながら、楽しいだけじゃなくて、関係性だったり、あるいは疲労だったり、いろんなところを苦労されているんだなというのがよく分かりました。

前半の質問を1個だけ、最後、ラストにしますね。部活ってもっとこんなふうだったらいいのになとか、何かありますか。もちろん今苦労しているところを改善するというところもあるんだけど、こんな部活だったらもっといいのになというのが。

○委員 さっきの話ともつながってくるんですが、天気などもあって、野球部の休みってなかなか安定しないんです。日曜日が休みになっていますが、試合になったり、練習になったり、休みが土曜日になったり。休みの日が安定したほうがいいんじゃないか思います。

○委員長 いわゆる適切なスケジュール管理ですよ。スケジュール管理がちゃんとできているかどうか。

○委員 2点ほどあって、1つは、陸上はやっぱりタータンという競技場のトラックのところで走るのが一番のメインなので、コロナ前は、私の中学校は競技場に行って練習させていただいていたんですけども、コロナ禍になってしまって、今年に入って2回ぐらい使用させていただいていますが、最近は3か月に1回とかぐらいの程度でしか使用できていません。やっぱり難しいというのは分かるんですけども、いろんな学校と一緒にやりながらでもいいので、競技場のトラックの使用をもっとやらせていただけると、私たち競技者からするとすごくうれしいことだというのが1つ。



もう一つは、部活のときに、みんなでもっとやろうという意識を上げられるような場所、環境にしたいなというのは変えたいところです。

○委員長 なるほど。

○委員 サッカーだけじゃないのかもしれないですけども、部活の学校時代だけとか、苦労でもあるかもしれないですけども、ちょっと実力差があるところとかがあって、私の部活動でも、最初の中1の頃から始めたよという人も、元からやっていた人たちが多くいるので、その中についていくのがつらいとかというのもあったり、試合とかで、大会とかで当たるときにも、普通にサッカーなのに20対0とか、そういうときがあったりするので、そういうのも実力とかがなきゃ話にはならないんですけども、そこももうちょい考えたほうがいいんじゃないかなと思ったりしました。

○委員長 実力差があるのに、同じ試合をしなきゃいけないということだよな。

○委員 部活って、僕が思っていることだと、生徒がつくり出すものだと思っているんですけども、それでももうちょっと周りに大人がいてほしいというか、テニス部でもやっぱり外から見たら分からないけれども、中ではよくけんかしているとか、トラブルが起きて誰か1人いなくなっているとか、うちの部活はよく多いんですけども、僕は副部長で、それもちょっと解決したいなと思っていて、1回部長と僕とトラブルに巻き込まれた子で解決しようとしたんですけども、やっぱり無理で、大人に頼りなさいと言われていたんですけども、周りに大人がいなかったりとか、大人を呼びに行くうちに、もうその子がどこかに逃げていたりとか、そういうのがあるので、もうちょっと周りに大人がいてほしいかなと思います。

○委員長 適切に管理して、あるいは指導してくれる大人の存在ですね。ありがとうございます。

○委員 今回聞かれている要望とは違う、結構自分勝手なことを言うんですけども、週4で、自分はテニススクールみたいなのに行っていないので、伸びがちょっと悪いとか、そんな感じがあるので、昼休みとか、朝練とか、特に今2年生、うちの代がめっちゃやる気があって、そういうのをできたらいいねみたいな感じのことを言っているので、そんなことが要望です。

○委員長 なるほどね。練習、いわゆるボールが打てる機会というのかな、それがもう少し自由に増やせるということでもいいのかな、今の話。

○委員 はい、そんな感じです。

○委員 私も顧問の先生がもうちょっと周りにいてほしいというのがあって、忙しいというのがあるので、しょうがないと思うんですけども、私は部長で、私とあともう1人男子のテニス部の部長がいて、この2人でずっと練習メニューを考えてやっているという状態で、やっぱり先生から見てもここができていないというのとかもあると思うので、顧問の先生がいてくれると、顧問の先生からの練習メニューとかもできるので、顧問の先生が周りにいてほしいというのと、あと練習時間をもうちょっと延ばしたくて、試合前とかに特に練習時間を増やしてほしいと、サッカー部と野球部とテニス部で3時間交代で、3時間ずつでグラウンドを使っているの、3時間しか使えないんですよ。準備時間もあるので、やる時間が少なくなってしまうので、試合前とかは特に練習時間を増やしてほしいというのがあります。

○委員 今、パート練ばかりみたいなそういう状況になってしまって、パート内でのコミュニケーションにとどまっている状況なんです。それを部活全体のコミュニケーションとして広げられたら、もっといい部活になると思うし、あと皆さんおっしゃっていたように、顧問の先生が全然、ミーティングだけ来るみたいな、そういう状況になっているんですよ。だから、やっぱり大人の目はあったほうがいいと思うし、そのほうがより効率的な部活になるのではないかと思います。

○委員長 次の話に行くので、これで最後にしましょう。

○委員 さっき時間を延ばしてほしいとかもあったんですけども、この季節で、冬になるとやっぱり5時半ぐらいからちょっと暗くなっちゃうじゃないですか。僕は去年も今年もそうなんですけれども、何回か照明の反射でボールが見えなくて、右目にぶつけて黒目を傷つけるということが結構あって、なので、危ないし、なるべく夜は5時半とか、5時40分ぐらいになったら、もう練習をやめて筋トレとかにしてほしいなと思っています。

○副委員長 私から確認を1点させてください。深沢中学校さんは2つの部活に入ってもいいという感じなんですね。

○委員 はい。

○副委員長 ほかの皆さんの学校はどうなんですか。部活というと1つ、それとも幾つも入っていいよという形ですか。

○委員 原則1つなので、先生とかに相談したらいいよみたいな、そういう例もあるらしいんですけども、それは本当なのかなという。

○副委員長 あまり見られない例のようですね。ほかの学校の皆さんは1つとは限られて

はいないという形ですね。

ありがとうございます。

○委員長 では、実は今日集まっていたのは、部活の在り方がどんどん変わっていくというのはニュースでいろいろもう知っていると思うんだけど、ちょっと簡単に世田谷区の皆さんから説明をしてもらいますので。

○事務局 では、皆さん、こんばんは。教育委員会の加野と申します。私は娘がもう大きいけれども、中学校だったときに文化部に入っていました。ちなみに私は、中学は美術部で、高校は合唱部でした。

ちょっと短く説明しますね。お手元の資料で「中学校部活動の地域移行ってなに？」という紙があるので、これを見てください。詳しくは皆さんで見てもらってと思いますが、簡単に説明します。

中学校の部活動がこれから変わっていくというのが、日本全国で今これから進められようとしています。何が変わっていくのかと一言で言うと、今まで学校教育の中で行っていた部活動を地域での活動に移していきましようということです。いろんな考え方があるので、今日はあまり細かく話しませんが、例えば教える人、これは今まで学校の先生とか、部活動の支援の人とか、それから大学生のボランティアの方とかが今来ていると思います。それが、例えば地域の人とか、地域の団体で指導する人とか、クラブチームの人とか、そういう方が教えられるようになります。ただ、部活の指導を希望している先生は、少し違う形で教えることができるということも考えられています。

活動の場所ですが、今は自分の中学で大体やっていっしょだと思います。これからはそれに加えて、よその学校に行くとか、区の施設を使うとか、民間のスポーツ施設を使うなどが考えられます。

それから、部員ですけれども、今、同じ学校の同じ生徒の方たちだけでやっている部活だと思います。ほかの中学の生徒と一緒にやったり、それから小学生や高校生などと一緒にやったり、地域の大人と一緒にやったり、いろんな可能性が考えられます。

裏面を見てください。大会の参加、運動部の方たちは大会に参加をする、吹奏楽も大会があると思います。今までは学校の部活動の単位でしかできなかったんですけど、これからは、幾つかの学校が集まってやる部活動や地域クラブなどからも参加ができるように、これから国のほうで調整をしていくということになっています。

それから、部費についても新しい考え方で、これは新しい制度なので、いろいろ区のほ

うでも仕組みを考えていかなければいけないと思っています。

そして、その他のところに書いているんですけども、今まで中学にある部活動以外に地域でやっている団体の活動とかに参加することで、それを部活動とすることもできるので、今ない部活動に参加することもできるようになります。これは新しい制度なので、いろいろと課題があって、考えていかなきゃいけないことがいっぱいあるんですけども、簡単な仕組みについて御説明しました。よろしくをお願いします。

○委員長 加野課長ありがとうございました。皆さんに今説明のことについて、ちょっとこうなんじゃない、ああなんじゃないという意見を聞きますので、ちょっと考え方をまとめておいてください。

その前に教育長。

○教育長 遅くてすみません。私は教育長の渡部です。教育長というのは、世田谷区の皆さんの学校生活がうまくいくように、学び、生活や部活動などうまくいくようにといろいろ話合いをしているところの長です。

今日は皆さんのお話を聞いてとてもよかったと思っています。皆さんは、それぞれの部の部長だったり、副部長だったり、そういう役割を持っていなくても、ある程度部の中で位置を持ってしっかりとやっている人のように感じます。しっかりと意見を言えるのはすごいと思っています。

ちょっとネガティブなことを聞くんだけど、今、皆さんはとてもいいところを言ってくれたんだけど、困っている人とか、部活を楽しめない人とか、それから辞めたい人とか、今、辞めたくて悩んでいる人とか、それからもう辞めちゃった人とか、多分身近にいると思うんです。そういうことはどういうときに起こって、何がいけなくて、何をどうすればよかったのかとか、皆さんも多分2年生などでは思うこととか、先輩を見ても思うことがあると思うんです。そういうちょっとネガティブなんだけど、ここをこうすればよかったのとか、ここがちょっとみたいなところを教えてほしいと思います。これは全員に聞いていると時間がないので、本当にごめんなさい、何か心の中に思った人だけにお伺いしようと思います。

○委員 さっき述べたとおり、顧問の先生が中1のときに辞めちゃったときに、その1か月後ぐらいに部員が3人ぐらい辞めちゃったんですけども、顧問がいたときはそういう部のまとまりとかもあったんですけども、いなくなってから、顧問が全然来なくなって、それで崩れていったというものもあるかなと思います。

○委員長 顧問が辞めることをきっかけにですね。

○委員 僕の野球部は、2学期になって1年生が1人辞めてしまいました。夏休みにあまり休みがなくて、顧問の先生から細かく指導されたのもあるのかもしれませんが。

○委員長 顧問の先生の態度やスケジュールのところですね。

○委員 私のところでは、1年生が3人辞めてしまって、その3人に共通しているのが勉強との両立は難しいというのがあって、中学校になって勉強が難しくなるので、その中で運動部であるテニス部に所属するのは難しかったのかなと思います。

○委員 テニス部では、去年僕たちが1年生だった頃、また人間関係のトラブルで1人辞めちゃったんですけども、そのときはやっぱり中学生になってから心の移り変わりがあると思うんですよ。そこの曖昧な状態だったから、いじりがちょっとオーバーになっちゃったりとか、やっぱりそこまで周りを見れていなかったというのがあって、辞めちゃいました。これからの改善点は、中学2年生というか、そういう経験もあるので、やっぱりちゃんと周りの目を見て、誰にでも対応して、少しでもみんながいいなと思える部活にできたらいいなと思っています。

○委員長 ちょっと1回いい。後で実は皆さんに紙に書いてもらうところがあるので、もしあれだったら、追加で書いてくれるとありがたいです。今の話はすごく重要な話なので、時間的に結構厳しいので、新しい制度について、皆さん、ちょっと感じるころはありますか。地域に移行する、全面じゃないんだけど、まずは休日。

○委員 メリットとしては、他校との交流ができるという点ではいいと思うんですけども、デメリットとしては、吹奏楽部って楽器が必須な部活となっているんですよ。楽器の運搬に時間だったり、コストだったりというのがかかるので、そこがちょっとデメリットかなと思います。

○委員長 重要な視点ですね。

○委員 ほかの学校とプレーができるということを聞いて、結構いいなと思ったんですけども、うちの顧問の先生がすごいやる気があって、すごい部活に関わってくれるので、ちょっと話を聞いていなかったのかもしれないんですけども、教える方が外部だったりする感じのイメージが今ある中、今日話して、先生からこれからもやりたいよという感じで言われて、少し反対というか、ちょっと微妙なんですけれども、その先生がやりたかったら、自由にしてくれたりしてくれるといいなと思いました。

○委員長 貴重な意見をありがとうございます。

○委員 私も、先ほども言ったんですけれども、ほかの学校と一緒に練習したりとか、地域のグラウンドを使えるということはすごくうれしいことで、これからそういうことができるようになるのであればものすごくいいことだと思うんです。私も、自分の学校の先生がうちの陸上部もちゃんと競技をやっているから、自分の指導方針で自分のやりたいことをみんなに教えて、いいと思っていることを教えてくださるという方なので、大人のことになってしまうのかもしれないんですけれども、クラブチームとか、ほかの方の指導と少し合わなかったときに、生徒の自分たちからして、どっちを聞いたらいいいのかとか、どっちの言っていることが自分に合うのかということで、ちょっと混乱してしまう部分があるのかなというのがあります。

○委員長 重要な視点ですね。指導者が2人以上いるということね。

○委員 同じように、他校の生徒との関わりが増えるのはとてもいいことだと思うんですけれども、その反面、そこでの人間関係のトラブルも両方の中学校の問題で、先生方が処理しなきゃいけなくなってしまうので、その部分も大変なんじゃないかなと思いました。

○委員長 人間関係のトラブルが広域にわたるとのことだね。2つの学校にわたっちゃうと。

○委員 他の委員とちょっと似ているんですけれども、施設を使えたり、ほかの学校と交流できるというのはすごくいいことなんですけれども、やっぱり部活ってその学校の伝統とか、こういうやり方というのはあると思うんですよ。でも、やっぱり合わさっちゃうと、どっちかに合わせないといけないじゃないですか。やっぱり部活を優先するよりは、生徒の気持ち、生徒がやりたいことをやらせるのが部活なんじゃないかなと思っているので、そこだとちょっと片方が嫌な思いをしちゃうんじゃないかなと思っています。

○委員 まず、メリットとして他校の人とつながれているんな価値観を共有できることはいいことだと思います。でも他校と一緒にチームになったとき、ちゃんとかみ合うのかわりと心配です。例えば合同チームのときです。私の学校は結構きつめの練習メニューをしっかりとやるのですが、他校はそこまでやっていないので、なかなか練習がかみ合いません。チームのカラーが違くと難しいと思います。また地域移行していくと、活動範囲が広がるのはいいのですが、交通費がかさむのがたいです。

○委員長 大事なところですね。部の雰囲気、それから移動の時間とコストというところですね。

あと今挙げている3人で終わりにしたいと思います。

○委員 さっき言い忘れちゃったんですけども、うちの顧問の先生、この前、合唱コンクールがあって、そのときに、その先生はすごく合唱が好きだったりして、合唱コンクールの練習をしたり、あとは漢字テストが部活の次の日にあったりするときは、漢字の練習とかをしたり、学校行事とかについても学校の先生ならそういうことができたりするので、学校の先生がやっぱり顧問のほうがいいんじゃないかなと思います。

○委員 私の学校のテニス部は、女子と男子がもう混合でやっているの、グラウンドとか、ほかのところに行けるのはいいんですけども、男子が本当に人数が多くて、なので、移動するときとかに電車に乗ったりしたときに、周りの人の迷惑とかになりそうだなというのがあります。

○委員 やっぱり地域移行することによって、より専門的な指導が受けられるというのはすごい僕としてもメリットがたくさんあるなと思うんですけども、部活動があるのは、やっぱり礼儀とか、例えば挨拶とかなんですけども、あまり言っていないのか分からないですけども、僕の学校でクラブチームとかに通っている子は、挨拶とか、礼儀とかがあまりないかなと思うので、挨拶とかそういうのを教えるのも部活動の一つの機能だと思うので、そういう機能がなくならないように地域移行をしていかないとまずいんじゃないかなと思います。

○委員長 ありがとうございます。また後ほどアンケートというのか、回答用紙みたいなのがあって、ちょっと項目が多いので本当に申し訳ない。私たちが考えたところで、幾つかちょっとへんてこな言葉もあるんですけども、書ける範囲で後で書いてもらって、それがすごく私たちの、今後の中学校の子どもたちに非常に参考になる意見なので、ぜひとも率直に書いてもらえるとありがたいなと思っています。

そろそろ時間も、皆さん、55分になってしまったので、一旦ここで引き取らせていただいて、副委員長、少しコメントをいただけますか。

○副委員長 皆さん、今日はありがとうございました。中学生の皆さんが本当にすぐぱつと手を挙げてくれて、そして今の気持ちをしっかりとした言葉で伝えてくれたことは本当に嬉しかったです。皆さんの言葉をいただいて、また我々も次に向けて検討を進めていきたいと思っています。今日はありがとうございました。

○教育長 本当にありがとうございました。本当は倍ぐらい時間があつたら、もっと深いところまでお話が伺えたのかなというふうに思いました。今日いただいた意見は必ず生かしていきたいと思っています。

それと同時に、多分皆さんがいることで救われている人が部活の中にいると思います。皆さんがいることでその部活がもっと活発になったり、いい部活になるような気がしました。そういう役割を皆さんは担っているのです、これからもぜひ頑張って続けてください。

○委員長 ありがとうございます。私は、皆さんとこの1時間ぐらいしゃべって行って、ああ、やっぱり大人が考えている以上にリアルにみんなはいろんなことを考えているし、悩んでいるし、そこを踏まえてちゃんと制度をつくっていかないと、すっからかんというか、あまり中身の少ないような形になっちゃうなんていうのを改めて感じて、皆さんの意見を本当に聞けてよかったし、もっと聞きたいなというのが正直なところです。

またシートのほうに書いてもらって、それから、その中から何人か12月15日かな、お呼びすると思いますので、そのときは来てもらって、堂々と意見を言ってください。それがみんなに響くので、それが世田谷の中学生に大きくいい意味でのインパクトがあるので、ぜひとも助けてください。

では、私のほうは一旦司会を終わらせていただいて、事務局のほうに返したいと思います。お願いします。

○事務局 皆様、たくさんの意見を発言していただきありがとうございます。皆さんの部活動に関する率直な意見を聞いて、私も10年以上前なんですけれども、中学時代のことが思い出されましたし、すごく勉強させていただきました。今の意見交換会で言えなかったことがあったり、もっと伝えたいなと思うことがあると思います。今から職員のほうで回答シートとあと返信用封筒のほうを配付させていただきますので、書けるところを記入していただいて、封筒に入れて11月29日までに返送していただけたらと思います。皆さんからの意見をたくさん聞きたいので、ぜひ御協力をお願いいたします。

また、委員長から説明がありましたが、来月に部活動についていろんな団体の方が集まって会議を行います。その際に、この中で代表者の方数名に本日の発言のほうを発表していただきたいと思います。後日、お願いすることがあるかと思いますが、ぜひ御協力のほうをお願いいたします。

以上で中学生による意見交換会を終了いたします。この後、引き続き高校生・大学生の意見交換会が開催されますので、準備ができた方から御退室のほうをお願いいたします。また、今日の資料とお茶は持って帰っていただき、忘れ物がないように帰宅のほうをお願いいたします。

それでは、皆さん、本日はありがとうございました。



午後 5 時58分閉会

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会 検討部会  
(高校生・大学生の部)

日 時：令和4年11月17日(木) 午後6時10分～午後6時59分

場 所：三軒茶屋分庁舎 消費生活課「教室」

出席者：委員(8名)

【学識経験者】近藤委員(委員長)、細越委員(副委員長)

【高校生】藤田委員、石井委員、近藤委員

【大学生】貴志(太)委員、貴志(勇)委員、新井委員

【区職員】渡部教育長

事務局(3名)

次 第：1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

4 意見交換

5 まとめ

6 連絡事項

午後6時10分開会

○事務局 それでは、時間となりましたので、これから高校生・大学生による中学校の部活動に関する意見交換会を開催いたします。

皆様、こんばんは。本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

私は、世田谷区教育委員会事務局生涯学習・地域学校連携課の鈴木といいます。今回は、部活動に関する意見交換会ということで、少し私の話になってしまいますが、私は中学時代に野球部に所属しておりました。大会でいい成績を残すために一生懸命になって練習に取り組んでおりました。あれから10年以上経ちますが、あのときの経験が今の自分を支える根幹になっているなど強く実感しております。

これから皆さんにも、中学時代に部活動にいろいろ取り組んでいられたと思いますが、その部活動について思っていることを自由に話してもらいたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、まず皆さんと一緒に意見交換をされる日本体育大学の近藤智靖委員長より御挨拶していただきます。近藤委員長、よろしくお願ひいたします。

○委員長 皆さん、こんばんは。日体大の近藤です。中学校時代は、学校ではバスケットボール、そしてクラブチームというか外では野球をやっています、高校、大学と野球をやりながら、今、タッチラグビーというところの顧問をやっていますが、それは名ばかりみたいところで、いろんな意味でずっと部活とかに関わってきております。

皆さん、これから、高校生の立場、大学生の立場からそれぞれ意見を言ってもらいたく思いますので、自由に発言してください。また、発言したことが何か学校のほうで不利益になるとか、そういうことは一切ありませんので、世田谷区の中学校のこれからのために思い切って発言してくれるとありがたいなと思っています。

では、以上です。

○事務局 近藤委員長、ありがとうございます。

それでは、お手数ですが、ここからは委員長に進行をお願いいたします。近藤委員長、よろしくお願ひいたします。

○委員長 よろしくお願ひします。この後、ちょっと自己紹介をしてもらおうので、少し心積もりしておいてください。後でお名前と、それから御所属みたいなのを御発言をいただく。簡単にお願ひします。

その前に、大人のほうから紹介をしたいと思います。

○副委員長 皆さん、こんばんは。国士舘大学の細越といいます。今日、皆さんにお声かけをさせてもらったのは、これから世田谷区の区立の中学校の部活動が地域移行するという事で、いろんな面で変革、いい形で変革を目指すことになるんですけども、それに伴って区立の中学校で部活動をしてきた皆さんの意見をたくさん伺いたいというような趣旨の場になりますので、もう先ほど委員長がおっしゃいましたけれども、ぜひ中学校のときの部活動を振り返って、たくさんたくさんお話をしてもらえるとありがたいなと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○教育長 教育委員会の教育長の渡部です。よろしく願いします。

今日は皆さん忙しいと思いますが、世田谷区の中学生のために集まっていたいてあげがとうございます。これから部活が変わっていきますので、皆さんの意見を生かしながら変えていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いします。

○委員長 ありがとうございます。恐らく緊張していると思いますが、目の前にある麦茶は飲んでいいですので、どんどん開けて飲んでください。

順番に行きたいと思います。高校生のほうからいいですか。順番に、お名前と、それから学校名、それから中学校時代に何をしていたかというのを教えていただけるとありがたいです。

#### (委員自己紹介)

○委員長 ありがとうございます。それで、今から皆さんの御意見をいただく前に、少しだけ御了解いただきたいことがあるんですけども、実は12月15日かな、12月中旬に今度は大人の人たちが集まる検討委員会というのがあるんです。そこに、場合によっては2人ぐらいかな、この会議の中から高校生ないしは大学生の意見という形で意見を言っていたく人を選任させていただく可能性がありますので、そこだけは御了承ください。それを聞いたら、うわっ、面倒くさい、言うのをやめようなんていうことをあまり気にしないで、思い切って発言してもらえればありがたいなと思っています。

先ほど副委員長のほうからもありましたけれども、主に中学校時代の話なので、今のもちろん高校のとか、あるいは大学のという活動もあるんですけども、できる限り中学校の話をして少し思い出をお話しいただくとありがたいなと思っています。大きく分けると、中学校時代の部活の話と、それから地域移行というのがもう既に皆さんの中で情報がちょっとだけ入っているかなと思うんですけども、それを踏まえたときに、私だったらこんな

ことを考える、こんなことを感じるというふうに、大きく分けると2つの話があります。

まず最初に、中学校時代の思い出みたいなのを少し語ってもらえるとありがたいんですけども、中学校時代、一番楽しかったなとか、こんな経験、成長したななんていういわゆるプラスの経験というのかな、そんなようなところを少し語ってもらえるとありがたいなと思っています。

では、1回目なので、順番に意見がある人が挙手でいきたいと思うんですが、1周目でするので、そういう意味では、ウォーミングアップを兼ねて、大学生のほうから行きましようか。中学校時代の思い出でポジティブなところはいかがですか。

○委員 中学校でバスケットボール部に所属していたんですけども、小学校まではあまり真剣に運動に取り組んでいなくて、どちらかといえば、保健体育とかあまり好きではなかったんですけども、やっぱり友達とかもバスケットボール部に多かったのも、それでバスケットボール部に入ったんですけども、小学校の頃とは違って、部活動に真剣に取り組むことで、今までできなかったこととかができるようになるという達成感みたいなのが自分にとってはとてもプラスになって、部活動を通して運動を好きになることができました。

○委員 やっぱり部活動を真剣に、運動をやっていくという上で、同じように今までできなかったことができるようになり、達成感もありましたし、あと部活動で礼儀というか、上下関係とかは、相手のところに挨拶とか、そういう礼儀とかも学ぶことができたし、小学生のときは、あまり1人でどこかに出かけるとかじゃなくて、やっぱり親と一緒にどこかに出かけるということが多かったんですけども、やっぱりチームメイトたち、自分たち子どもだけで電車で移動とか、そういう社会経験も部活動を通して学ぶことができたのかなと思って、このあたりが自分にとってはプラスになったのかなと思っています。

○委員 自分は中学校に入るまでは全く運動に触れてこなかったんですけども、中学校で何となく入ったバスケットボール部だったんですけども、仲間と一緒に試合とかに出て、練習とかして、成果を残せるのがすごい楽しいなと思えてきて、後輩はちょっと少なかったんですけども、そういうのがあって、自分もそこからどんどん、バスケだけじゃなく、運動も好きになってきたので、そういうのがプラスの点だなと思います。

○委員 私は、中学の部活に入るまで1つのことに熱中したりすることがなかったんですけども、中学の部活に入って、1つのことに集中して取り組むというのが楽しくなったり、部員が多かったのも、仲間を思う思いやりが小学校のときよりも中学生になってでき

るようになったのが一番プラスなことだと思います。

○委員 自分の学校には柔道部というのがなくて、練習は国士舘中学校の柔道部に行かせてもらって、ちょっと例外みたいな感じなんですけれども、それでもやっぱり上下関係とか、高校生の先輩もいたりしたので、そういうのが分かったり、自分たちでやるチームワークみたいなのが一番楽しかったし、チームでやるみたいな、個人競技だけれども、そういう面が一番育ったかなと思います。

○委員 中学の部活に入るまでスポーツに熱中したりということがなくて、やったことがないテニスだったけれども、入って、仲間と声を掛け合って頑張ったり、きつい練習も仲間と乗り越えて、それが今の部活にも生きていると思うし、上下関係や礼儀とかを学べたことで、目上の人に会ったときに、きちんと礼儀正しく挨拶とかができるようになったのが中学の部活で学べたんだと思います。

○委員長 ありがとうございます。すごくいい経験をしてきたんだろうなというのを想像しますよね。仲間の存在だとか、できるようになるとか、熱中するとか、達成感だとか、それから礼儀とか、思いやりとかという態度のところでプラスの経験をしてきたかなというのを今聞きました。

ここから先は考えがまとまった人だけが手を挙げてもらって、もちろん自由に、まとまり切らなくても手を挙げて構わないので、部活で苦労したな、これはきつかったなとか、もちろん練習がきついというのものもあるのかもしれませんが、こんなところがきつかったななんていうふうに、大変だったなという苦労話みたいなのが中学校時代にありますか。どうでしょう。誰でもいいよ。

○委員 部活の内容とかという話じゃなくなってしまうかもしれないんですけど、校則のほうで靴下は白、ワンポイントとか、靴も白、黒というあれがありまして、部活動にもそれがもちろん適用されて、自分の場合だったら、バスケットボールのシューズとか、ソックスとかが必要だったんですけど、たくさんある中でやっぱり白1色、黒1色とか、靴も白1色、黒1色、集めるのが苦労したということ、用具集めというか、そういうのが苦労したことの一つかなと思います。

○委員長 単色のルールというか、規則みたいなのが適用されていくところが悩ましいところだったかもしれませんね。

ほかはいかがですか、こんなところが苦労して大変だったなというのは。

○委員 僕の部活は先輩も1人しかいなくて、後輩も三、四人くらいしかいなくて、自分

の代が10人くらいいて、自分はその代で、投票だったんですけれども、部長になりまして、そこで練習試合とか公式戦だと、相手チームの監督とかに挨拶に行ったりするんですけれども、そういうときに、今まで全くそういう運動のコミュニケーションとか、上下関係とかを知らないままだったので、そういう礼儀とかに関しては少し苦労した部分があります。

○委員長 なるほどね。大人との付き合い方というか、ほかの学校の先生だとか、あるいはほかの学校の主将だとか、そんなようなことですね。

○委員 私の中学の部活は、顧問がテニス未経験者で、先生に教えてもらうということができなくて、そのときに、後輩ができたときに、後輩にやり方とかを聞かれても、自分が教えてもらえなかった立場なので、うまく教えることができなくて、それが少し悔しいなと思いました。

○委員長 専門的な経験のない先生が顧問だったり、あるいはいなかったりというところですね。ありがとうございます。

○委員 私の部活は部員数が本当に多くて、私の学年が23人いて、それぞれがいろんな意見を持っていたので、バレーボールはチーム競技というのもあって、それぞれの意見をまとめたりするのも大変だったし、1つのチームで一つになって何かをやり遂げるというのが一番大変でした。

○委員長 なるほど。まとめ上げていくことのしんどさというか、組織としてのつらさみたいなのがあったかと思います。

○委員 苦労したというか、自分がというよりは、バスケットボールをやっていたので、チームが苦労したということもあるんですけれども、自分が中学のときの部活動とか、顧問の先生とかはちょっと厳しい方で、先輩もやっぱり最初は20人いないかぐらいで、自分たちの代もそのぐらい入ってきたんですけれども、やっぱり途中で辞めてしまう人たちが多くて、先輩たちは20人ぐらいいたのに、結局4人ぐらいになってしまったり、自分たちの代も半分以上人数が減ってしまって、やっぱりそうなったときに、練習がやりにくいとか、今までいた人たちがいなくなっちゃうところで、戦術的なこともあるんですけれども、結構難しくなっちゃったかなというのが自分たちの中学校では苦労したかなというところになります。

○委員長 その辞めた子たちは何で、最終的には辞めた理由は何かあったの。大量に辞めていますよね。

○委員 練習が厳しいというのがありますし、言い訳としてはよくある言い訳なのかもし

れないんですけれども、勉強に集中したいということとか、そのぐらいですね。

○委員長 なるほど、ありがとうございます。

○委員 名前だけ借りて柔道部みたいな感じで、試合は中学校の名前で出させてもらったんですけれども、もちろん柔道部というものがないから、専門的な人もなくて、顧問として学校側で1人ついていかなきゃいけないんですけれども、中学2年生の途中まではその先生がいてくれたんですけれども、辞めちゃって、顧問の代わりになって一緒についてきてくれる先生がいなくて、自分のお父さんがそういうのを知っているんで、そういうのをやってくれたり、試合の情報とか、出られる登録とかをしてくれる先生がいなくて、それも自分の家でやって、自分以外にも2人ぐらい柔道で、やっているところは違うけれども、中学校の名前を借りて試合に出るみたいな子がいて、その子たちの分も自分の親が負担していたので、そこら辺があまりなくなってしまったなと思います。

○委員長 名前は出ているけれども、そのサポートが非常に薄かったということ。

○委員 そうです。

○委員長 なるほど。

○委員長 ほかはいかがですか。大丈夫ですか。

では、今のと少し関連するんですけれども、中学校時代をちょっと振り返って、こうだったらよかったのになというか、多分サポートとかという話になるのかななんて思うんですけれども、こういうふうなところが改善されたらよかったのになというのを具体的に指摘していただけますか。どうですか。

○委員 自分の中学校の顧問もバスケットボール未経験者で、自分たちで練習メニューを考えろみたいな感じの方で、自分たち10人の中にも経験者はいなかったんで、自分たちで調べてとかしていたんですけれども、やっぱりどうしても限界みたいなのがあって、途中から顧問の方に、調べていくうちに外部指導というのを見たので、その当時大学生だった方1人に部活を見てもらうという期間を自分たちでお願いしてもらわないとできないという感じだったので、未経験者の顧問がいる部活のサポートとかをもう少ししてくれたらなと今は思います。

○委員長 なるほど。中学校のときにはバスケットボールの経験者がいなかったんだね。

いかがでしょう。今、未経験者というところと、それをどういうふうにサポートするかという意見が出ました。ほかはいかがですか。中学校時代。

○副委員長 あの時こうだったらということでもいいんですね。



○委員長 あのときこうだったらもうちょっとうまくいったのにな、こうなら苦勞しなくて済んだのにな。

では、また後でその話はどこかでできたらいいなというふうに思っているんですけども、先に世田谷区が今どういうふうに動こうとしているのかという地域移行について、少し概要をお話しいただいて、その上で、皆さんが、それだったらどういうふうに考えるか、こういうところに課題があるよみたいなことを言ってもらったほうが、もしかしたら、皆さん、いいかなと思っているので、事務局の方ご説明をよろしくお願いします。

○事務局 皆さん、こんばんは。世田谷区の教育委員会生涯学習・地域学校連携課の課長をしています加野と申します。よろしく申し上げます。

ちょっとだけ御説明をさせていただきます。資料の中に、こういうちょっと文字が多い資料、これは国のほうで作った提言の資料というのが2つ入っています。1つはスポーツ庁、1つは文化庁が作ったものです。今日はちょっと御説明の時間があまり長くないので、こちらの資料は説明をしません、皆さんは高校生、大学生なので、御自分で後でじっくり読んでいただければと思っています。

それで、もうちょっと簡単な資料をおつけしています。縦型のA4判のもので、「中学校部活動の地域移行ってなに？」という資料がありますでしょうか。こちらで少し簡単に御説明をさせていただきます。「中学校の部活動が変わります！」ということで、今、日本全国の動きとして、これから令和5年度から3年間でまず中学校の部活動の休日の活動を地域に移行しようという動きがあります。そして、平日も一部から少しずつ変えていくという形になります。

何が変わるのかということですが、これまで学校の教育の中で行ってきた部活動を地域でスポーツ活動や文化活動に参加する形に変えていくというものです。どこが変わるのかというところを少しピックアップして御説明します。

まず、教える人ですが、今まで学校の先生、いわゆる顧問の方が中心に部活をやっていて、それに加えて、さっきもお話がありましたけれども、部活動支援員の方、それから大学生のボランティアの方なども指導員に加わっています。これからの新しい形では、例えば地域の指導者の方とか、地域の団体などで指導する方、それからクラブチームなどの指導員、民間のスポーツクラブなどの指導員などが教えることができるようになります。それと指導を希望される熱心な先生もいらっしゃるのです、そういう先生は教えることを続けることはできますが、学校の先生として教えるのではなくて、同じ方ですが、

地域の指導者として教えるというような仕組みが考えられています。

それから、活動場所ですけれども、今の中学生は大体皆さん自分の中学校の施設を使って活動されています。これからですけれども、学校の施設は使えるのはもちろんなんですが、それ以外に、例えばよその小中学校の施設、それから区の施設、民間のスポーツ施設なども使えるように、いろんな形が取れるようになります。

それから、部員ですけれども、今は同じ学校の生徒だけで活動しています。制度が変わった後は、それももちろん続きますけれども、それだけでなく、違う中学の生徒と一緒に活動したり、小学校や高校生などと一緒に活動したり、地域の大人と一緒にするなど、いろいろな形ができるようになります。

裏を御覧ください。運動部だと大会に参加するなどがありますが、大会に出るのも、さっきも柔道の大会のお話がありましたが、学校の部活動単位でというのが今の決まりです。これからはそれだけでなく、幾つかの学校が集まってやる部活動や地域クラブなどからの参加ができるようになります。

部費ですけれども、これも学校に納めるという形から、地域クラブに納めるというような新しい形が考えられていて、これはいろいろと新しい仕組みを考えなくてはいけないとされています。

その他のところですが、今は部活動の種類が限られています、例えば地域の団体がやっている活動に部活として参加するということができるようになるので、これまではできなかった新しいジャンルの部活動も参加できるようになる可能性があります。

それから、いろいろと検討しなくてはいけないことがたくさんありますけれども、併せてぜひ皆さんの御意見をお聞かせいただけたらと思います。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。大分いろんなことが変わってくる可能性が今模索されているんですけれども、今、ちょっと聞いてみて、どんなふう思ったかなというのを、自分事として少し考えてみてくれるとありがたいかなと思っているんです。例えば高校生であれば、もしかしたら、中学生が自分たちのクラブにやってくる可能性がある、あるいはほかの学校さんと合同することの可能性も考えられるというところだし、お金を払わなければいけない可能性も出てくるとか、いろんな可能性があると思うんです。あるいは大学生であれば、指導者としてもしかして行くかもしれないなんていうことも考えられるので、今の説明を聞いて、こんなところはちょっと懸念されるんじゃないかな、こんなところはちょっと、ここはいいけれども、ここはちょっと不安だなとかというところがあった

ら教えていただけますか。いかがでしょう。どなたからでもいいですよ。

○委員 違う中学校と合同になるかもしれないみたいな話があったんですけども、自分も中学校のときに、部員が少なく、夏休みに都内のほかの中学校と合同練習をしたことがあるんですけども、そのときに感じたのが、やっぱりふだんやっている練習メニューが全く別というのと、今思ったのが、ほかの中学校でも実力の差というのがやっぱりあると思うので、そういうのが一緒に練習していると、どんどん差がなくなっていっちゃうのかなとちょっと思いました。

○委員長 差がなくなるというのはどういうことかな。

○委員 試合とかの結果が、強い中学校と普通の中学校で練習ともしなった場合なんですけれども、どっちかにやっぱり合わせることになっちゃうので、実力の差というのがちょっと埋まっちゃうのかなと思いました。

○委員長 なるほど、なるほど。ありがとうございます。ふだんと違う異文化というのか、その出会いみたいなのところも考えられますね。

○委員 教える人とかは、やっぱり皆さんのお話を聞いていると、未経験の先生が顧問の先生をやっていたりして、そこに経験の豊富な先生とかが教えに来てくれるというのはすごいいいことだとは思うんですけども、部活動の部員の構成とかというのでは、やっぱり違う中学校と、自分も違う中学校と合同練習をしたことがあるんですけども、ふだん仲よくしている同じ中学校の部員同士だと、やっぱりふだんの自分でできるというか、違う学校、ふだんあまり話さない子と一緒にやると、やっぱり気を使っちゃうというか。バスケットボールは、接触とかがあるスポーツなんですけれども、試合とはちょっと違って、合同練習ということなので、スポーツマンとしてちょっとあれなんですけれども、やっぱり気を使っちゃうというか、そういうことがあると、幾らいい環境で練習ができたとしても、やっぱり自分の実力というか、そういうのが伸び悩んじゃうこととかが出てきちゃうのかなとちょっと思いました。

○委員長 いい意見ね。しっかりしている意見、気疲れしてしまうというのかな、相手、ふだんと違う関係性の中で疲れ切っちゃうというのかな、ありがとうございます。

○委員 違う中学校の生徒と一緒にやるというので、違う中学校の生徒と一緒にやるというのはいいんですけども、自分的にはそれが、ちょっといつもの練習環境と違うところでやることによる刺激というか、それで得られるものがあるから、それが日常的になっちゃうと、そういうところでの成長というのがなくなっちゃうんじゃないかなというのはち

よっと思いますね。

○委員長 ある意味特別な環境であったのが、それが日常化していくことの大変さというのかな。

○委員 そうです。

○委員 テニスはほぼ個人スポーツの感じなので、やっぱりうまい人もいるし、初心者という子もいるし、うまい人を見ると、やっぱり自分が刺激をもらって、こんなふうになりたいと思うようになるので、やっぱり自分の学校だけじゃなくて、違う学校の生徒とやるのはいいと思います。でも、他校の学校の校庭などはやっぱり行くというだけで苦勞だし、自分の学校の施設でやることで、やはりもっと練習に時間をかけられるし、部費が、テニスは試合に出るためにお金を払ったりしなきゃいけないので、さらにお金がかかるのは、部活に入るのもちょっと抵抗があるなと思います。

○委員長 重要な意見が出てきましたね。移動することによる時間とか、あとお金の問題が非常に出てくるぞと。ありがとうございます。

○委員 私も違う中学校の人と一緒にやるというので、もちろん自分たちのチームにうまい人がいなかったときとかに、違う中学校の人でうまい人がいたら、その人たちと協力し合って、全員でうまくなれると思うんですけども、今は同じ学校だから一緒に生活しているわけだから、そこで部活の相談とかも気軽にできると思うんですけども、違う中学校の人と一緒にチームになると、学校生活もあるから、そこでほかの中学校の人とは、学校生活の部分ではコミュニケーションが取れないので、そこは意見の食い違いとかが出てくるんじゃないかなと思います。

○委員長 学校生活の環境も含めて関わっていくことの難しさというところですね。ありがとうございます。

○委員 自分が思ったのは、小学生や高校生などと一緒にというところなんですけれども、土日だけ小学生や高校生たちとやるにしても、例えば中学生と小学生だったら中学生が、中学生と高校生だったら高校生が、やっぱりレベルの違いというか、小学生だったら中学生のほうが高いし、中学生と高校生だったら高校生のほうが高いみたいな、それが日常化しちゃうと、やっぱりレベルが高いほうの生徒は土日は教える日だみたいな、自分たちの練習に少なからずなると思うんですけども、質というかレベルの違いが、小学生、中学生、高校生だとやっぱり違うので、そこがちょっと問題というか、どうなのかなと気になります。

○委員長 年齢とか学年差がある子たちが一緒になってくると、どっちかに合わせなきゃいけなくなっちゃうということですね。非常に重要な視点かなと思います。

○副委員長 私、皆さんに1つ伺いたいんですけども、皆さん、中学校のときには1つの部活動で3年間頑張ってきた皆さんということですよね。1つの部活で頑張っていると、このチームでという思いがやっぱり強くなるじゃないですか。このチームでこういうふうになってみたいとか、それがチームワークの場合もあれば、大会の成績の場合もある、いろんなことがあると思うんですけども、でも、さっき辞めていった子が多かったという話もあったから、だからもしかすると、これからの中学生は、自分の学校で頑張りたいという人もいれば、ちょっとその中でじゃなくてもいいかなという仲間がいたときに、いろんなスタイルの、例えば諸外国に行くと、シーズンごとにやるのが違うシーズンスポーツなんていうのがあったりとか、あと学校によっては基礎体力部とか、ゆる系というのかな、そんな部活があったりとかということも最近増えてきたりしているんですけども、皆さんがイメージするような部活がある一方で、でも、地域の中にそうやって少し緩めめというか、少し幅の広いというか、そんな部活があったとしたら、それは皆さん、どう思いますか。もしかすると、皆さんも、ああ、ちょっと今はこれを頑張ったけれども、この日はこっちに行きたいなといって、その受け皿になるような、そんな部活があるよ、なんていうことになったらどう思いますか。それはそれでありなのかな。全員じゃなくていいと思うんですけども。

○委員長 少し今までの形態と違うような部がある、これからできるとなったときには、皆さん、どう思いますか。それはいい、いや、それはちょっと、どうですか。

○委員 自分はそういう部活があっても全然いいかなと思っていて、大半の人が辞めちゃったり、その理由が勉強とかいろいろあったんですけども、でも、そういう人たちって、緩いというか、言い方があまりよくないかもしれないんですけども、緩い部活が何個かあって、そこに入って行く傾向があったんですよ。何でと聞いてみると、部活動に入っていると進路に書けるからという声が多くて、自分のところが結構厳しい部活だったので、やっぱりそこにはついていけないということで、逃げ道みたいなのところがあるとやっぱりいいのかなと。もし後々の学校生活内での関係性というのも円滑になるのかなと思います。

○副委員長 そこで充実できるようなものがあればよりよいということだよな。

○委員 はい。

○委員長 逃げ道といえば、ある種安全地帯みたいなのところかな。

○委員 私自身が入学当初、入りたい部活、目を引かれる部活がなくて、いろんなところに仮入部に行って、最終的に決め手が、部活の週数が少ないというところで決めてしまって、厳しい部活に入る勇気がなくて、とりあえずやったことはないけれども、入ってみようみたいな感じで入って、同じ部活にそういう子がいて、私は3年間続けたんですけれども、その子は途中から来なくなっちゃって、やっぱりそういうところで、ほかに選択肢が増えると辞めたりすることがなくなって、3年間続けることができると思うし、やっぱりそういうので、スポーツって楽しいんだなと思えたりすると思うので、すごくいいと思いました。

○委員 私も自由に参加できる部活があるのはいいと思っていて、私のチームにも試合で勝ちたいために練習しているという人もいたり、スポーツ自体をただ純粋に楽しみたいという人もいたので、そこで意識の差というか、そういうのが生まれてきちゃうと部活の練習も全員が楽しめなくなっちゃうと思うので、そこは自分が行きたい日に行けるとか、スポーツをちゃんと楽しみたいという人が行けるような部活はあったらいいと思います。

○教育長 ちょっと視点を変えて、皆さんの知り合いに小学生がいるとします。5年生か6年生ぐらいです。これから中学校に行く、その子にはうまく育ててほしいなと思っている、親しいとことかかな、そういう人たちに部活のことをどういうふうに勧めるのか、何かアドバイスするとしたら、どんなことをアドバイスしたいと思うか。入ることを勧めるのか、またはそんなことはやらないほうがいいのか、緩い部活もあるしと勧めるのか、皆さん自身だとしたら。なかなか難しいけれども、気軽に考えて答えていただければと思います。

○委員長 皆さん、いかがですか。知っている親戚でもいいし、かなり親しい小学生がいたらどうしましょう。何て言うかな。

○教育長 気軽に考えていただいていいです。そんな難しく考えなくていいです。

○委員 私のいところが今中学1年生に入ったばかりで、部活動をどうするか迷っていたんですけれども、私は中学校3年間部活を続けたことを中学生活の中で一番誇りに思っていたので、スポーツをやりたいという気持ちがあるんだったら、練習とかも厳しいときもあると思うんですけれども、3年間続けたら、達成感が私は一番大きかったので、続けたいという気持ちがあるんだったら、なるべく3年間続けてほしいというのは言いました。

○委員 今、自分のいところが小学3年生で、小学校の外でクラブチームでサッカーとバスケットボールをやっていて、どちらも同じぐらいの頻度でやっている状態なんですけれど

も、どっちもやりたいとなったときに、一旦中学校の部活動と比べて、ずっとやってきたクラブチームはそのまま入ったらやりやすいと思うんですけども、中学校の部活動でどういういいところを見つけたのかというのを聞いて、その練習の内容とかも見てもらって決めてもらいたいなというふうに思います。

○委員長 ありがとうございます。時間も実はもう6時55分を過ぎてしましまして、そろそろまとめのほうに入っていきたいなと思っています。本当に貴重な意見をありがとうございました。

ここで副委員長、御感想も含めていかがでしょうか。

○副委員長 皆さん、ありがとうございました。こういうメンバーが集まって話すのも初めてだったかもしれませんし、こういう会自体もなかなか経験がないところだったと思うんですけども、たくさん意見が出始めたところかなと今思っています。

今日皆さんに伺いたいことは、後から委員長からまたお話があるかもしれませんが、回答シートということで書いてもらって、提出していただくというようなこともあるようですので、ぜひ言い切れなかったことは、そこでたくさんまた我々に教えてもらえればなと思います。皆さんの後輩たちが部活動で豊かに中学校生活を送れるように、また僕らも仕組みづくりを考えていきたいと思っておりますので、これからももし気づいたことがあったら、また引き続き意見をもらえればと思います。

今日はありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

では、教育長、お願いします。

○教育長 今日はありがとうございました。高校生の皆さんには引き続き、楽しい学校生活を送ってほしいなと思います。

大学生の方たちは教育学科というところで、教育の何かを目指していらっしゃるということだとすると、教育委員会として何かお手伝いすることがあるかもしれないので、ぜひ言っていただければと思います。自分の希望するところに就いていただけるような努力をしてほしいと思います。

以上です。今日はどうもありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。先ほど、実はまだたくさん質問項目を用意していたので、書ける範囲で全然構わないので、後日書いてもらおうと、もちろん書けないところは、これはちょっと書けないとなったら、それは空欄でも全然構わないので、そこは任意でい

きたいと思っています。

私としましては、大学生、それから高校生に意見を聞いて本当によかったなと思っておりまして、中学生とは少し違う、当事者というよりは少し離れて、卒業して、振り返ってみたらこんなふうなことが言えたななんていう、あるいは今だからこういうふうなことがあったほうがいいななんていう話が聞けたのはとても参考になりました。緩部活とか、そういうところもそうですし、あるいはやり過ぎ、あるいはやらなさ過ぎ、そういったところの問題がそれぞれあったんだなというのを改めて感じた次第です。

副委員長もおっしゃいましたけれども、この意見が次の未来の世田谷区の中学生をつかっていきますので、また今度機会がありましたら、御意見をいただければというふうに思っています。本日はありがとうございました。

では、一旦事務局のほうに戻したいと思います。お願いします。

○事務局 皆様、中学校の部活動のためにたくさんの意見をいただきありがとうございます。今の意見交換の場で言えなかったことがあったり、もっと伝えなかったことがあると思います。これから職員のほうで回答シートと返信用封筒をつけて配付をさせていただきますので、書けるところを記入していただき、封筒に入れて11月29日までに御返送していただけたらと思います。皆さんからの意見をもっとたくさん聞きたいので、ぜひお願いいたします。

また、近藤委員長のほうから冒頭に御説明がありましたが、12月15日に部活動の地域移行についていろいろな団体の方が決まって会議を行います。その際に、この中で代表者の方数名で、ぜひ本日の発言していただいた意見を発表していただきたいです。後日お願いすることがあるかと思いますが、その際はぜひ御協力のほう、お願いいたします。

以上で高校生・大学生による意見交換会を終了いたします。本日配付している資料や、あとお茶は持って帰っていただき、忘れ物がないように、帰り道に気をつけて帰宅をしてください。

それでは、皆さん、本日はありがとうございました。

午後6時59分閉会